

(生活・総合的な学習の時間)

「地域で生きる未来の子どもを育てる」
～深い学びにつながる授業をめざして～

大阪市立鶴橋小学校 研究部

1. 研究主題設定の理由

本校では、「心豊かな子どもを育成する」を学校教育目標とし、「豊かな心を育む教育の推進」「確かな学力の育成と体力の向上」「開かれた学校作り」の3点を具体的方策として、様々な教育活動を展開してきた。

本校の児童は、明るく、素直なものの見方や考え方をし、課題に向かって粘り強く取り組む態度が育っている。「自分の生活の中から課題を見つけ、身近な人・もの・こととかかわり、それが自分にとってどうつながっているのかを考えながら課題を解決し、その学びを自分に生かしていく」といった一連の課題解決学習は、学び方を学び、他者や社会とのかかわりに気づき、自信や自尊感情といった自立的に行動する能力につながる資質であり、変化の激しい未来社会を担う子どもたちに必要とされている主要な能力に符合するものであると考える。そこで、地域とのかかわりを大切にしながら体験的な活動をするを通して、この地域で生きていく子どもたちが様々な課題を自分事として捉え、主体的に解決しようとする力をつけることを目指して研究主題を設定した。

2. 研究の趣旨

本校では、平成22年度から生活・総合を研究教科として研究を進めてきた。子ども一人一人の学びを重ね合わせたり、別の視点で考え直したりすることでより価値のある学びを創り上げることを目指し、思考ツールを積極的に活用してきた。また、学習のめあてに対する具体的な行動目標をもち、より主体的に学習に取り組めるようにするため、ルーブリックを取り入れた実践も進めてきた。実践を重ねることで、子どもたちも思考ツールやルーブリックに慣れ親しみ、活用する力がついてきた。自分の考えがまとめやすくなった、目標に向かって意欲的に学習に取り組めたりすることで、達成感を味わい学びを実感できるようになってきた。深い学びにつながる授業を構成するために、今年度も継続して思考ツールとルーブリックを活用することとした。

また、深い学びには、子どもの学習に対する姿勢も重要であると考え。子どもたち自らが、学びを深め高め合うためには、相手の意見を丁寧に聞き、受け止める姿勢が大切である。心を相手に向け、相手の言いたいことは何だろうと考えながら意見を聞いたり、相手に自分の考えが伝わるような話し方を心がけたりする態度こそが、子どもが安心して活発に意見交流をする力のベースとなると考える。「話すこと・聞くこと」についての力を育むことで、自分とは違う「ものの見方や考え方」との出会いにつながり、それこそが深い学びであると本校では共通理解している。そこで、子どもたちが互いに高め合い、学び合おうとする力を高めていけるような取り組みを進めてきた。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点1 学習文化の形成

○ 「鶴橋ブランド」

子どもたち自ら、学び合おうとする力を高めることを目指して、定期的に「話すこと・聞くこと」について授業態度を振り返ることで、子どもたち自身で学習文化を作り上げていけるような取り組みをする。

○ 「つるぶらりい」

豊かな言語力の育成に向け、読書環境の整備や読書に関わる行事を通して、読書活動を推進する。

視点2 指導法の研究

① 考える授業

ルーブリックにより、学習の到達目標を明確にしたり、思考ツールを考える活動を支援するための手立てとして活用したりすることで、子どもたちがより意欲的・主体的に学習に取り組めるようにする。

② 振り返りの充実

授業の終末に、ルーブリックに沿って学習を振り返ることで、学びを実感できるようにする。また、振り返りカードに疑問に思ったことや次にしてみたいことを記入することで、次の活動へとつなげるようにする。

③ 多様な体験活動

地域の「ひと もの こと」との関わりを通して、本物との出会いをしたり、地域の人の生の声を聴いたりすることで、様々な課題を見出し、自分事として課題解決に向けて取り組めるようにする。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- どの学年も鶴橋ブランドの取り組みを通して、子どもたちが学習を振り返り、自己評価することで学び合おうとする力が高まった。
- ルーブリックによって、学習の到達点を明確にすることで、意欲的に学習に取り組むことができた。また、思考ツールを活用して自分の考えを整理することで、話し合い活動の活性化につながった。
- ルーブリックに沿って振り返る時間を十分に確保することで、子どもたちは学びを実感し達成感を味わったり、新たな課題を見つけたりすることができた。
- 学校内外での「ひと もの こと」との関わりを通して、本物と触れ合う活動を繰り返すことで、社会的事象の意味を自分事として深く考えることができた。

(2) 今後の課題

- 個人やグループでの考えを元にした全体での話し合い活動が、さらに活性化し深い学びにつながるような指導者の発言や助言の工夫をする。
- 自ら思考ツールを選択し使える力を育成するために、他教科においても積極的に思考ツールを取り入れ、活用する。